

第3回「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会 摘録

1 日 時 平成21年1月27日（火）15時00分～17時00分

2 場 所 新・都ホテル 地下1階 「陽明殿」

3 出席者 別紙出席者名簿

4 議事次第及び内容

(1) 開会

(2) 報告 環境モデル都市の選定について

(3) 議事

ア 公共交通ネットワーク検討部会の検討状況について

イ 未来の公共交通まちづくり検討部会の検討状況について

ウ 公共交通優先のライフスタイル検討部会の検討状況について

(4) 意見交換

■公共交通ネットワーク検討部会の検討状況

中川副会長（公共交通ネットワーク検討部会長）：京都大学大学院工学研究科教授

- 公共交通ネットワーク検討部会では、京都市内を運行されている交通事業者に何度も集まって頂き精力的に議論頂きながら検討してきたものである。これまで、個々の事業者はそれぞれ最大限の努力を重ねてこられたが、事業者間で協力することにより画期的に利便性を向上できる方策を提案したものである。

茂山委員：狂言師

- バス停環境改善において、公共交通を利用したくなるような「かっこいい」「おもしろい」という視点は非常に重要であると思う。例えば、子どもが乗りたくなることで、大人も乗るようになる。子どもにとって「かっこいい」「おもしろい」デザインであることも重要ではないか。

中川副会長：京都大学大学院工学研究科教授

- 車両（デザイン）を変えたことによって需要が増加したという事例もあるので、良い車両を導入することによって、多くの人に乗ってもらえるという事に留意すべきである。

上田委員：京阪電気鉄道株式会社代表取締役社長

- 機関車トーマスのキャラクターの車両を使ったイベントが人気である。猫バスをデザインした車両など、おもしろいデザインは子どもに対するアピール度が高く、効果的なのではないか。
- 最近、大阪市では広告付きバス停の導入が開始されたが、屋外広告等の景観問題も含めて、京都市でも検討されてはどうか。

葛西委員：京都市公営企業管理者（交通局長）

- 子どもに視点を向けた施策としては、小学生のバス運賃を無料にするサービスを昨夏に実施した。バス待ち環境等におけるデザインの向上については、景観政策とも連携して重点的に取り組んでいきたい。

佐藤委員：サントリー文化財団 上席研究フェロー

- LRTを運行している富山では、LRT以外の鉄道も以前より便数が増えており、クルマから転換需要がある。便利になれば利用が増える良い例である。
- 神戸の市街地から六甲山の裾野の住吉台を結ぶくるくるバスは、地元が主体となって、15分間隔のバスを運行しており、家族が遊びに来るようになったとか、休日は山登りの人が利用するといった需要がある。
- 新しい需要を喚起し、マイ・バス意識をもってもらうことが大事である。今までは、人が乗らないからバスの便数を減らすという悪循環に陥ってきたが、この発想を転換することが重要である。

中川副会長：京都大学大学院工学研究科教授

- 利用者は、「もう少し便利なら利用するのに」と考えており、事業者は、「もう少し利用があれば増便できるのに」と考えている。同じ方向を向いて考えているので、ご指摘の通り、どこかで悪循環を断ち切って好循環に転換させる必要がある。
- 京都の場合は、少し便利にすることで利用が増加する箇所も多いと考えられるので、推進していきたい。

■未来の公共交通まちづくり検討部会の検討状況

中川副会長(未来の公共交通まちづくり検討部会長)：京都大学大学院工学研究科教授

- 「未来の公共交通まちづくり検討部会」については、中長期的な事を含めて議論を進めている。自動車の分担率を20%以下にするという目標水準は、ライフスタイルを転換していくような事がなければ達成は難しい。単に交通問題だけではなく、歩いていけるところに商業施設や医療施設が立地しているといったまちづくりとも連携していく。
- 自動車交通の抑制と適正化の方策で挙げている、ロードプライシングや駐車場施策、交通条件の公平化については、広く市民の方の意見を聞きながら合意形成を図る必要がある。

太田委員：京都府総務部長

- 沓掛ICから大山崎ICまで高速道路が繋がるとともに、大山崎に阪急の新駅が整備されるので、新駅においてパーク・アンド・ライドを実施すると効果的である。パーク・アンド・ライドについては、「近隣市町とも協力して実施していく必要がある」と記載されているが、「協力して実施する」と言い切れるのではないか。
- 京都府でも電気自動車の促進条例を検討しているところであり、府市協調で進めていきたい。
- 京都市では、自転車駐輪場の附置義務はあるのか。

事務局

- 自転車駐輪場の附置義務については、義務付けの対象となる業種が、これまでの銀行・小売・遊技場の3業種から、飲食などを含めた14業種に拡大されるとともに、付置義務台数についても、20台以上の基準であったものが、15台以上に見直を行う予定である。現在の附置義務によって、約28,000台分の駐輪場が設置出来ているが、さらに集客施設への義務化をスピードアップしていく。

谷口委員：立命館大学情報理工学部助教

- 公共交通の分担率目標水準の達成のためには、駅やバス停までの徒歩・二輪の利便性を高める必要がある。駅やバス停に行くまでの道程も含めて、公共交通ネットワークであると考え、検討する必要がある。
- 自転車にとっては、駐輪場と自転車専用道の整備が重要である。

中川副会長：京都大学大学院工学研究科教授

- 自転車については、空間的な制約があるので、都心部と周辺部によって考え方を考えるべきではないか。

事務局

- 地域別の交通体系のあり方や道路の機能分担を検討する中で、自転車交通についても方向性を示せればと考えている。

藤田委員：株式会社京都リビング新聞社「リビング京都」編集長

- ベビーカーを利用している親を対象に、アンケートを実施する機会があった。「ベビーカーを電車内でたたんだ時に、車輪で他の人の服を汚さないようにカバーを用意している」など、出かける際には、非常に気を使われていると感じた。公共交通を利用すると、色々と気を使わなければいけないので、クルマを利用する人もいると思われる。ベビーカーを押している人にも使いやすい公共交通といった視点も必要なのではないか。

佐藤委員：サントリー文化財団上席研究フェロー

- ベビーカーをたたんで乗ることが、これまでのマナーであった。ベビーカーを利用している方は、公共交通を利用する際に、非常に負担を強いられてきたが、これまでのマナーを変えていっても良いのではないか。例えば、「京都の公共交通では、ベビーカーをたたまなくても乗れます」といったPRが考えられる。
- 自転車については、観光客などを対象に自転車で走って欲しい場所をサイクリングロードとして選定し、整備することを提案として盛り込むと、話題性があるのではないか。

上田委員：京阪電気鉄道株式会社代表取締役社長

- 京阪グループのノンステップ・バスではベビーカーを折り畳まないで乗るようにルールが変わってきている。

中川副会長：京都大学大学院工学研究科教授

- マナーについても考える必要がある。降車時にベビーカーの人が最後になると危険なので、ベビーカーの乗降を優先するなどのマナーを周知してはどうか。

岩井委員：醍醐コミュニティバス市民の会会長代行

- 醍醐コミュニティバスはこの2月で5周年を迎え、4月には累積乗客数が200万人を突破する見込みである。地域の力で実現し、また、コミュニティバスが走ることになって、地域の横のつながりが増えた。市内各地の地域力を活用し、地域の足としてのコミュニティバス導入に向けて、いい方向性が示せるようにしたい。

村上委員：株式会社京都放送報道局アナウンス部長

- 以前、バス路線が大きく再編された時にもラジオを担当していたが、便利になった、不便になった、と様々な意見が寄せられた。今回、再編するにあたっては、再編する目的や理由について周知徹底を図る必要があると思う。
- キャリーサービスや宅配機能付コインロッカーについて、報道で取り上げられた際に、何かが変わっていくという期待を抱いたとともに、具体的に誰がこの施策を進めていくのかという疑問が寄せられた。今後は、各施策の実施主体を明確にしていくべきである。
- 地下鉄のエレベータの場所を分かりやすくする案内板の設置も必要ではないか。

大石委員：大石内科クリニック院長

- 限られた道路空間であるので、自動車をどのように走らせるべきかという事も一緒に検討する必要があるのではないか。

平井委員：京都商工会議所 地域開発・都市整備委員長

- 商工会議所としてはLRTの検討をしてきた。この審議会でもLRTについての記述はあるものの、意見が少ない。観光振興にもなるので、京都市のLRTについては是非検討していただきたい。

事務局

- 公共交通ネットワーク検討部会の施策における実施主体については、交通事業者と行政・関連団体からなる組織を構築して実施していくことを検討したい。
- 自動車の使い方について、自動車を全部否定するものではない。公共交通が充実し、不要不急な自動車の使用を抑制されることによって、公共交通と自動車の適切なバランスを創出していきたい。
- LRTについては、京都市の財政力が非常に厳しい中、なかなか実施に向けて踏み出せないというところがあるので、民間のみなさんと一緒になって実現に向けて検討していきたい。

■公共交通優先のライフスタイル検討部会の検討状況

内藤委員（公共交通優先のライフスタイル検討部会長）：京都大学名誉教授

- 市民意識調査の結果、非常に圧倒的な賛意を頂いた。特に、伝統的な京都のまちには、クルマが似合わないという意見が多いことに感動し、議論をするだけでなく、早く実施しなさいというエールであると感じた。

■その他

上田委員：京阪電気鉄道株式会社代表取締役社長

- 鉄道駅やバスターミナル周辺の駐輪場の整備促進についても盛り込んでもらえば良いのではないかと。

山崎副市長

- 環境モデル都市において、3つのシンボル・プロジェクトの一つとして「歩くまち・京都」戦略を掲げている。本審議会の位置づけも非常に重要なものであり、今後とも活発な議論を宜しくお願いしたい。

(5) その他

事務局

- 次回は中間とりまとめの審議をお願いする予定である。日程については会長及び副会長の日程等を勘案の上、ご案内させていただきたい。

(6) 閉会（水田交通政策監）

- 委員の皆様には、お一人お一人が大変お忙しい中お集まり頂き、大変熱心なご議論を賜りまして、誠にありがとうございました。
- 一つ一つ議論を積み重ねながら進めていかなければならないテーマであるが、これまでの発想を変えながら進めていく必要性についても、改めてご指摘頂いたと感じている。
- ようやく折り返し地点付近に到着できたかと感じているが、事務局が浮き足だつことないよう、委員の皆様の地に足のついたご議論とご指導を賜りながら、ここからは事務局の胆力の見せ所であると認識して、推進して参りたい。本日は、誠にありがとうございました。

第3回「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会 出席者名簿

(敬称略)

副会長	内藤 正明	京都大学名誉教授
副会長	中川 大	京都大学大学院工学研究科教授
委員	岩井 義男	醍醐コミュニティバス市民の会会長代行
〃	上田 成之助	京阪電気鉄道株式会社代表取締役社長
〃	大石 まり子	大石内科クリニック院長
〃	太田 昇	京都府総務部長
〃	大橋 幸之助	西日本旅客鉄道株式会社執行役員京都支社長
〃	佐藤 友美子	サントリー文化財団上席研究フェロー
〃	茂山 千三郎	狂言師
〃	角 和夫	阪急電鉄株式会社代表取締役社長
	(代理:若林 常夫)	阪急電鉄株式会社取締役都市交通事業本部長)
〃	谷口 忠大	立命館大学情報理工学部助教
〃	西植 博	国土交通省近畿地方整備局建政部長
〃	平井 義久	京都商工会議所 地域開発・都市整備委員長
〃	藤田 晶子	株式会社京都リビング新聞社「リビング京都」編集長
〃	三木 和幸	京都府警察本部交通部長
	(代理:川村 猛)	京都府警察本部交通部交通規制課長)
〃	村上 祐子	株式会社京都放送報道局アナウンス部長
〃	森本 一成	京都工芸繊維大学教授
〃	吉田 晶子	国土交通省近畿運輸局企画観光部長
〃	山崎 一樹	京都市副市長
〃	葛西 宗久	京都市公営企業管理者(交通局長)

(事務局)

水田 雅博	交通政策監
佐伯 康介	都市計画局歩くまち京都推進室長
黒田 芳秀	総合企画局地球温暖化対策室長
岡田 憲和	環境局環境企画部長
鶴谷 隆	文化市民局市民生活部長
永井 久美子	産業観光局観光部長
二木 久雄	建設局土木管理部担当部長
佐伯 英和	建設局道路建設部担当部長
木村 繁	交通局企画総務部担当部長
	他